

理學博士五島清太郎君ノ外部寄生性吸蟲類研究ニ對スル授

賞審査要旨

理學博士五島清太郎君ハ明治二十二年以降數年ノ間、外部寄生性吸蟲類ノ研究ニ從事シ、遂ニ左ノ重要ナル論文ヲ公ニシタリ。

- 第一、 On *Diplozoon nipponicum* n. sp.—*Jour. Sci. Coll.*, IV, 1891, pp. 151-192.
- 第二、 On the connecting canal between the oviduct and the intestine in some monogenetic Trematodes.—*Zool. Anz.*, 1891, pp. 103-104.
- 第三、 Der Laurer'sche Kanal und die Scheide.—*Centralbl. f. Bakteriol.* n. Pa. 4 *Yenk.*, 1893, pp. 797-801.
- 第四、 Studies on the ectoparasitic Trematodes of Japan.—*Jour. Sci. Coll.*, VIII, 1895, pp. 1-273.
- 第五、 Notes on some exotic species of ectoparasitic Trematodes.—*Jour. Sci. Coll.*, XII, 1900, pp. 263-295.

右ノ論文中、其第一ニ在リテハ、*Diplozoon*ノ一種ニ就キ形態學上ノ研究ヲ行ヒテ其微細ナル構造ヲ最モ詳カニ記述シタリ。抑モ*Diplozoon*ハ淡水魚ノ鰓ニ寄生スル吸蟲屬ニシテ、其甚奇ナルハ幼稚ノ間

ハ各自皆分離シテ生活ヲ營ミツ、在ルモ、其成熟期前ニ到リテハ、甲乙兩蟲互ニ接觸シテ十字形ニ交叉シ、且ツ密ニ相膠着シテ、遂ニ終生復タ分離スルコト能ハザルノ状態ヲ形成ス。此奇蟲ニ就キテハ、已ニ歐洲ノ研究家特ニ Zeller 氏ニ依リテ闡明セラレタルモノ尠カラザリシモ、著者ハ更ニ尙ホ一層其知識ヲ増進セシメタルノ功績アリ。而シテ特ニ吾人ノ注目ヲ値スル一事ハ、著者ガ此甲乙兩蟲結合ヲ以テ永續交尾ノ状態ナリト認定スルニ於テハ Zeller 氏ト其解釋ヲ同ジウスト雖モ、兩蟲ノ生殖器相互ノ關係ヲ説明シタル論點ニ至リテハ獨創的ニシテ Zeller 氏ノ所說ヲ凌駕シタリ。蓋シ Zeller 氏ノ所說ニ據レバ該蟲ハ Laurer 氏管ヲ有シ、甲乙兩蟲結合後ニ於テ、甲ノ該管ハ乙ノ輸精管ト接續シ、以テ兩蟲ノ生殖器ヲ互ニ相交通セシムト云フニ在ルモ、著者ハ連續切片ヲ精細ニ檢察シタル結果ニ據リテ、夫ノ所謂 Laurer 氏管ナルモノハ、實ニ各蟲自己ノ腸管ニ開通スル Canalis genito-intestinalis ニ外ナラズト首唱シ、加之、結合セル兩蟲ノ各自ニ於ケル輸精管ハ、結合對手ナル蟲ニ屬スル卵黃管ト通ズト謂ヘル事實ヲ確定シタリ。而シテ斯ノ生殖器關係状態ハ、Diplozoon ニ對シテ最モ近縁アル吸蟲ニシテ、無對腔ヲ有スル種屬（例之バ Microcotyle）ノ二個蟲ガ交換的ニ交尾スル場合ヲ想ヘバ、其際必生セザルベカラザル關係ト一致スルコトヲ指摘シタリ。

第二及第三論文ハ、則チ第四論文ノ或ル事項ヲ豫報シタルモノト看做シテ可ナリ。故ニ其批評ヲ省ク。

第四論文ハ、就中最モ重要ノ一篇ナリ。著者ハ殆ド四ヶ年ニ亘ル歲月間ニ於テ、先ツ其研究材料ヲ蒐集シ、而シテ遂ニ總計拾屬參拾種ノ外部寄生性吸蟲ヲ得タリ。是レ皆海産魚類ヨリ採取シタル處ニ係リ、其諸屬ハ凡テ已知ノモノナレドモ、其諸種ハ悉ク未知ノモノニ屬ス。著者ハ此豐富ナル材料ヲ斬新ナル方法ニ據リテ形態學上ノ研究ヲ遂行シ、以テ優秀ナル業績ヲ擧ゲタリ。此事蹟ノ本文ハ參部ニ分タレ、其第一部ニ於テハ、諸器官系ヲ解剖學上及組織學上ノ所見ニ據リテ述ベ、且ツ其比較論究ヲ試ミ、其第二部ニ於テハ、生態學上及生理學上ノ觀察ヲ記シ、第三部ニ於テハ、諸種屬ヲ分類學上ノ點ヨリ論說シテ各其範圍ヲ明示シ、且ツ其解析的索引表ヲ掲ゲタリ。篇末ニハ二十七葉ノ精圖ヲ附シ、以テ解説ノ用ニ供セリ。全篇中諸觀察ハ極メテ精密ニ涉リ、又其論議ハ斬新且ツ適切ナリ。就中諸吸蟲及縲蟲ニ於ケル生殖器附屬輸管ノ比較研究ハ甚ダ重要ニシテ、深ク専門家ノ注意ヲ喚起シタリ。即チ著者ハ專ラ自家ノ觀察ヲ根據トナシテ、縲蟲ニ於ケル腔ハ則チ吸蟲ノ子宮ニ相當シ、多數ノ外部寄生性吸蟲ニ於テ見ル所ノ腔ハ則チ縲蟲ノ子宮ニ相當スルモノナリト道破シ、而シテ吸蟲類中「ヂストマ」類ニ於ケル所謂 Laurer 氏管ハ、外部寄生性吸蟲ニ見ル *Canalis genitalis* ニ、又 *Aspidogaster* 蟲ノ卵黃囊ニ、更ニ又 *Amphilia* 蟲ノ所謂前行盲腔ニ相當スト爲セリ。

以上採録シタルモノ、外、此第四篇中ニ詳述セラレタル諸件ハ甚ダ多端ニシテ、且ツ其性質ノ全ク専門的ナルガ故ニ、盡ク之ヲ簡明ニ摘要スルコト殆ド不可能ニ屬ス。

第五論文ハ、北米ノ東海岸並ニ歐洲ノ産ニ係ル外部寄生性吸蟲類ノ九屬十二種（此中著者ノ發見ニ係ル一新屬ト七新種アリ）ヲ記載シタルモノナリ。著者ハ此篇ニ於テモ亦各種ノ内外構造ニ就キテ、可及的綿密周到ナル觀察ヲ下シ、之ヲ以テ同定類別ノ基礎ト爲セリ。

之ヲ要スルニ著者タル五島清太郎君ガ、外部寄生性吸蟲類ノ知識増進ニ對シテ貢獻シタル所ハ甚ダ顯著ニシテ、殊ニ第四論文ハ、雷ニ新發見ノ事實ニ富メルノミナラズ、又其觀察ノ周到ナル、將タ斷案ノ着實ナルニ於テハ、實ニ此種研究ノ模範ト看做スベキモノナリ。サレバ該論文ノ世ニ出ツルヤ歐米學界ノ識者ハ皆舉ツテ歡賞或ハ感謝ノ詞ヲ以テ之ヲ歡迎シ、以テ永遠ニ價值ヲ有スル業績トシテ稱揚スルニ至レリ。著者ノ業績ハ實ニ我帝國ノ誇トナスニ足ルモノナリ。